第30回新潟周産母子研究会

日　時　平成30年7月28日（土）
午後1時30分～
会　場　新潟大学医学部
有壬記念館2階

.

Ⅰ．一　般　演　題

1　NICU入院児支援コーディネーターとしての取り組み

新保亜希子・渡辺ひとみ*
新潟大学医歯学総合病院
NICU入院児支援センター
同　NICU・GCU*

NICU・GCUに長期入院している児について，その状態に応じた望ましい療養・療育環境への円滑な移行を図ることを目的に，平成23年に「NICU入院児支援事業」が県より当院へ委託され，その一環としてNICU入院児支援コーディネーターが配置された．主な活動は当院におけるNICU入院児の個別の入退院支援，新潟県内の入退院支援活動である．

2　当院における低体温療法の受け入れから導入までの振り返り

長谷川千絵・前田恵美子
新潟市民病院総合周産期母子医療センター
新生児内科　看護部

新生児低酸素性虚血性脳症に対する，低体温療法は出生から6時間以内の開始が適応である．そのため緊急性が高く，敏速な準備・導入が要求される．

しかし当院では年間症例数が1～6例のため，看護師の経験不足，夜間入院ではマンパワー不足から，入院受け入れに不安を感じていた．今回，2013年度から5年間の16症例の振り返りとスタッフのアンケート結果から，搬送から導入までの課題が明らかになったため報告する．

3　早産児を育てる母親のNICU退院後の不安

羽深　朱実・中村　直美・丸山智恵美
上野　直美・北村　千章※・飯吉　令枝※
県立中央病院　東7病棟
県立看護大学*

早産児への出生直後からの長期的支援や，退院後早期の介入が重要視されている．本研究では，在胎週数34週以下で出生し，NICU退院後半年前後経過した子どもの母親に対して，成長発達，育児の不安についてのインタビューを行い，母親の不安や困りごとを明らかにした．結果，子どもの身体の成長，発達についての不安は継続していること，授乳や病気に対する不安，育児不安，地域の子育て支援の利用方法がわからないということが明らかになった．

4　思春期および青年期を対象とした妊孕性に関する看護の文献研究

岡部　伶香・有森　直子※
国立成育医療研究センター
新潟大学医学部保健学科*

【目的】思春期および青年期にある対象への妊孕性に関して現在行われている看護と今後看護職に求められる役割を文献検討で明らかにする．

【方法】医中誌webにて「(妊孕性 or 不妊) and (思春期 or 青年期 or AYA世代) and 看護」の検索式を用いた．

【結果】①対象文献は，疾患有りと無しがほぼ同数であった．②現在行われている看護は，教育と相談が大半を占めていた．③今後求められる役割は，教育が最も多かった．

5　ヘパリン添加の有無と末梢静脈挿入式中心静脈用カテーテルの閉塞率の比較

鈴木　亮・倉辻　言
県立中央病院小児科

末梢穿刺中心静脈カテーテルは，閉塞予防にヘパリン添加が有効であるとされている．一方，ヘパリン添加を中止してもカテーテルの閉塞率が増加しないという報告がある．当科では，2015年